

「汽車 - 驀進 - 」

今回は、「汽車」をテーマに福井敬一の昭和 25 (1950) 年から昭和 29 年頃の作品を紹介します。戦後の貧困、そして空襲で全作品を失った暗雲の中で、福井は家族を養うために懸命に働きました。吾川製紙、日ソ映画社を経て、昭和 25 年にトキワ松学園の非常勤講師として絵画を教え始めました。教える立場になることで、ほぼ三年に及ぶ軍隊での制作活動の中断、その空白で生まれた描くことへの躊躇が克服され、描くことに邁進しました。福井は「1950 年はたしかに手答えのあった年であった」と書き残しています。福井の内なる情熱が驀進する SL の絵画の迫真性を生んでいるのではないのでしょうか。

福井敬一と常設展について

明治 44 (1911) 年台湾生まれ。帝国美術学校卒業後、油彩画を中心に制作活動を行い、国内美術界をリードしてきました。昭和 28 (1953) 年「上高井美術同好会」の講師となり、以来 37 年間にわたり毎年須坂市を訪れ、地域の美術指導にあたりました。須坂市文化会館メセナホールの緞帳「破風高原」の下絵を制作したことで知られています。平成 15 (2003) 年逝去。その前年、自身の希望により 600 余点の作品を須坂市に寄贈しました。これらの作品を市民の芸術文化振興に活用するため、テーマを設けて展示替えを行っています。



驀進 (1954 年)



驀進 (1954 年)